

モータースポーツ顕彰決定のご案内

鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)は、2016年度のモータースポーツ顕彰を決定いたしましたので、ご案内いたします。
鈴鹿サーキットでは1987年よりモータースポーツの発展、振興、ならびにファン拡大につながる顕著な活躍、活動、功績を残された個人、団体を対象にモータースポーツ顕彰を、また大きな活躍が期待される個人を対象にライジングスターアワードを設定し、その功績を広く知っていただくとともに感謝の意を表してまいりました。

2016年度も東京運動記者クラブモータースポーツ分科会、JMS(日本モータースポーツ記者会)、JRPA(日本レース写真家協会)、ロードレース記者会の皆様のご協力のもとに表彰者、団体を選出し、顕彰を決定いたしました。

なお、受賞者の皆様は2017年3月5日(日)、「2017 モータースポーツファン感謝デー」で行われる贈呈式に出席いただく予定です。

■2016年モータースポーツ顕彰 (2016年に顕著な活躍をされた個人・団体など)

TEAM CERUMO

スーパーフォーミュラでは、鈴鹿サーキットで開催された最終戦JAF鈴鹿グランプリのRace1で国本雄資選手が優勝し、ドライバータイトルとともに、チームとしても年間チャンピオンを獲得した。

また、SUPER GT第6戦 第45回 インターナショナル 鈴鹿1000kmでも、立川祐路/石浦宏明選手組が優勝するなど、チームとして鈴鹿サーキットでの活躍が光った。



■2016年モータースポーツ特別顕彰 (2016年に特別な活躍をされた個人・団体など)

Team GREEN

“コカ・コーラ ゼロ” 鈴鹿8時間耐久ロードレースでは、唯一となるトップとの同一周回数で、1999年以来17年振りとなる2位表彰台を獲得した。

全日本ロードレース選手権のJSB1000クラスでも、開幕戦で柳川明選手が3位に、最終戦ではスポット参戦したレオン・ハスラム選手が2レースともに2位となる活躍を見せた。



日産自動車大学校

スーパー耐久シリーズにおいて、KONDO RACINGとコラボレーションし、モータースポーツ活動を通じた学生の人材育成プログラムを実施。メカニック、マネジメント、広報などの各分野で学生が活躍した。

プロジェクト発足5年目の2016年は、シーズン4勝の活躍を見せ、初のST-Xクラスチャンピオンを獲得した。



■2016年モータースポーツ功労顕彰 (長年にわたり、モータースポーツの発展に貢献された個人・団体など)
該当者なし

■2017年ライジングスターアワード・4輪 (2016年の活躍と2017年にさらなる活躍が期待される4輪選手)



山下 健太 (やました けんた)

(1995年8月3日生まれ 21歳)

全日本F3選手権に参戦3年目となる2016年、鈴鹿サーキットでの開幕戦、第2戦をはじめ、シーズン7勝を挙げ、チャンピオンを獲得した。

また、マカオグランプリでの4位入賞に加え、スーパーGT300クラス、スーパー耐久へのスポット参戦など、各カテゴリーでも活躍した。

11月には鈴鹿サーキットでのスーパーフォーミュラキーテストにも参加するなど、次世代の4輪レース界を背負う若手として注目を集めている。

■2017年ライジングスターアワード・2輪 (2016年の活躍と2017年にさらなる活躍が期待される2輪選手)



榎戸 育寛 (えのきど いくひろ)

(1998年5月24日生まれ 18歳)

全日本ロードレース選手権シリーズST600クラス参戦2年目となる2016年、ベテランライダーなど強豪ひしめくクラスで着実にポイントを重ね、鈴鹿サーキットでの最終戦では同クラス初優勝を果たし、シリーズチャンピオンを決めた。

2017年度はJ-GP2クラスへのステップアップが予定されており、今後のさらなる活躍が期待される。

※年齢は2017年1月20日現在

当顕彰の贈呈式が行われる「2017 モータースポーツファン感謝デー」への特別無料ご招待券を、
 ホームページにてダウンロードいただけます
 <ゆうえんちモトピアパスポートが割引になるクーポン券付>
 詳細は鈴鹿サーキット公式ウェブサイトをご覧ください。 http://www.suzukacircuit.jp/msfan_s/